

令和7年 飯田市教育委員会8月定例会会議録

令和7年8月21日（木） 午後3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子
教育委員	麦島 真理子

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
副参事兼中央図書館長	瀧本 明子
教育政策課長	上沼 昭彦
学校教育課長	伊藤 寿
教育センター所長	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	小林 和弘
文化会館館長補佐	福澤 信幸
美術博物館副館長	槇村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功
教育政策課総務係長	北澤 五月

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） 定刻になりましたので、ただいまから令和7年度8月定例会を始めます。よろしくお願いいたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） それでは「会期の決定」を議題といたします。今定例会の会期につきまして、本日8月21日の1日間といたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、会期は、本日1日間というふうに決定をいたします。

次に進みます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 会議録署名委員として、今回は林 綾子教育委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

○教育委員（林 綾子） 承知しました。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 続いて7月定例会の会議録について承認を求めます。

あらかじめ原案を各委員のところへお送りしておりますが、内容についてご異議ございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、7月定例会の会議録は承認をされました。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして「8月教育委員会定例会 教育長報告事項」を御覧ください。めくっていただいたところにあるかと思います。

8月3日になりますが、ムトスぷらざで飯田市平和祈念館特別展を生涯学習・スポーツ課が開催しました。

私はちょうど2日目の日曜日に行ったんですが、親子連れの方たちが普段になく賑わっていて、展示も充実しておりましたし、何より展示物を触ることができるっていうよさがあるって、後で感想を寄せていただいた中で、「帽子が非常に貴重な帽子だ」というような情報もいただいたりもしました。もう一つは当時の食べ物を体験するっていうようなことで、飯田短大の皆様方が当時の材料レシピを基に作ったごはんがありまして、それを楽しみに来ている親子さんもいたかなというふうに思います。

いずれにしても、若い方が展示に興味を持って見ていただくということが非常に貴重なことだということ改めて感じました。いつも案内してくださったり、展示の整理をしてくださっている皆さん方も、非常に充実感を感じていらっしゃるよう感じました。

それから、三遠南信中学生交流会の、私は見送りとお帰りなさいっていうそういう部分しか直接は見ておりませんが、各学校から2名から4名ずつ参加していただきました。

今回から、先生方の引率を、主体的に研修として参加したいという方、やる気のある方たちに参加をしていただきました。参加した生徒の皆さんは単なる原稿を読むんじゃなくて、自らの言葉で語る場面がきっと多くあったんだろうなっていうようなことを感じ、貴重な2日間だったのではないかなというふうに思います。

それから3つ目ですが、人形劇フェスタのオープニングセレモニー、そしてその後の10日までの期間、参加をさせていただきました。

「どうしてボランティアの皆さんも700円のワッペンを買わなきゃいけないんですか」という「やらまいか」の提言が来たんですが、市長のオープニングの挨拶にありますように、この飯田市の人形劇フェスタは見る人と演じる人と支える人がみんなで作っているっていう、そういう貴重な取組なので、その辺の主旨がやはり伝わることが大事だなということを改めて感じました。

オープニングセレモニーは、「人形劇団あつけらかん♪」っていう劇団の皆さんが4人だったかな、やっていただきましたが、非常に観客が素晴らしいというか、もちろん演じるほうも素晴らしいんですが、それを見ている子どもたちが非常に反応がよくて、反応がいいと非常に楽しい空間になるなっていうことを改めて感じをいたしました。

この4日間は、天候がちょうど雨が降ったりして暑くなく恵まれて幸いだったなというふうに思います。文化会館の職員の皆さんを中心に実行委員の皆さん、ほか市の職員の皆さんが300人以上、スタッフとして協力をいただいております。

そして昨日ですが、県教委と飯伊の市町村教育委員会の懇談会があって、北澤職務代理者と参加をさせていただきました。

「教職員が教育活動に専念できる環境をつくるために」というテーマでグループに分かれての懇談を行いました。国としては、給特法の改正が今年ありまして、4年後までに教員の時間外勤務を月平均で従来の45時間から30時間程度に削減することを目標にして設定しているということでもあります。運動会が半日になるとか、各学校の努力もあって「この10年間では、小学校で17時間、中学校で24時間減少はしている」と、そんな報告もございました。

以上、私からの報告としたいと思います。何かお聞きになりたいことやご意見がありましたらお願いいたします。

この後、各担当からももう少し詳しいお話も出てくるかなと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) はい、ありがとうございました。

日程第6 議案審議(2件)

○教育長(熊谷邦千加) では続きまして、議案審議にこれから入りたいと思います。

今日は2件ございます。

議案第76号 公民館運営審議会委員の委嘱について

○教育長(熊谷邦千加) 最初に、議案第76号、「公民館運営審議会委員の委嘱について」を議題といたします。

議案の説明をお願いします。

小林飯田市公民館副館長。

○市公民館副館長(小林和弘) 資料7ページ、議案第76号となります。飯田市公民館運営審議会委員の委嘱についてでございます。

提案理由であります。飯田市公民館運営審議会委員に団体推薦者の変更が生じたため、御覧いただいています、飯田地区保護司会、また飯田市教頭会、2つの所属団体であります。

変更が生じたので社会教育法第30条、飯田市公民館条例第6条第1項及び第6条第3項の規定によりまして推薦を出したいとするものです。

任期につきましては、前任の残任期間ということで令和8年3月31日までといたしたいとするものです。

以上となります。よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いをいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それではこの議案第 76 号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 76 号は、原案のとおり決定をいたしました。

議案第 77 号 令和 7 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 続いて、議案第 77 号、「令和 7 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」を議題といたします。

議案の説明をお願いいたします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） それでは、議案第 77 号、令和 7 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、ご説明をさせていただきます。

認定対象者につきましては、別紙のとおりでございます。

それぞれ記載いたしました認定要件にて、飯田市就学援助費支給要綱第 5 条第 1 項の規定により、飯田市就学援助費の支給対象者として認定くださいますようご提案を申し上げます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それではご発言なしということで、議案第 77 号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 77 号は、原案のとおり決定をされました。

それでは次の日程に進みます。

日程第7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 「協議事項」に移ります。

協議事項1 令和7年度 運動会・文化祭への教育委員等の参加について

○教育長（熊谷邦千加） 協議事項1、令和7年度 運動会・文化祭への教育委員等の出席についてを議題といたします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） 令和7年度 運動会・文化祭への教育委員等の出席について、ご説明をさせていただきます。

8ページを御覧ください。令和7年度の運動会・文化祭への教育委員等の出席を希望される学校が複数ございましたので、先月の定例会後に日程調整をさせていただいたところでございます。分担表のとおり割り振りをさせていただきましたので、ご確認をお願いするとともに、ご出席をお願いいたします。

なお、学校からの案内状が届き次第、出席者にお渡しをいたしますので、日程の詳細につきましては、案内状にてご確認をお願いいただきたいと思います。

また、運動会につきましては、天候によりまして実施の判断が迷う場合は、大変お手数でございますが、各学校へ直接お問い合わせいただけると幸いです。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、ご質問、ご発言、ご意見等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

（「特にありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） お手数をおかけしますが、よろしくお願いをいたします。

協議については以上でございます。

次の日程に進みます。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） 日程第8「陳情審議」。本日は陳情審議はございません。

次の日程に進みます。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程第9「その他」。

(1) 教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「教育委員報告事項」。

それでは教育長職務代理者、教育委員の皆様方からご報告がございましたらお願いをいたします。

じゃあ、林教育委員、お願いします。

○教育委員（林 綾子） 7月31日ですが、中央図書館で行われました「絵本から物語へ」という講演会と後半ワークショップがあったんですが、そちらに出席させていただきました。

小幡章子さんという方が来ていただきまして、講演会の中で途中、絵本や昔ばなしの読み聞かせも実際体験させてくださいまして、大人でもこういった読み聞かせっていうものすごく豊かな時間を過ごせるなというのを実感した会でした。

また、中学生への読書の進め方として付箋を使ったやり方ですとか、あるいは絵本から物語にステップアップしていくときにどうステップアップしていくかっていうような実践的なお話もたくさんありまして、おそらく受講者は司書さんが大変多かったかと思うんですが、保護者の立場からしても子どもへの本の薦め方ですとか、そういったこと大変勉強になった会でした。

また、本当に豊かな時間だったんですが、特にその中で印象に残っていることを2つほど挙げさせてもらおうと、1つは絵本のよさっていうの自信を持って読み聞かせするためにも、絵本のよさを言語化しようということでした。その中で言っていたのが「幼児期にどうしてもネガティブな感情に蓋をしがち。特に保護者のほうで『嫌』とか『嫌い』とかそういう言葉をやっぱり止めがちだが、そういった不快感情に蓋をしてしまうと青年期にそういった不快感情の波にのみ込まれてしまうのではないか」ということをおっしゃっていました。それに対して「絵本を通じて、そうした不快感情を乗り越えるために、絵本をモデルとして共感したり、対話したりということが出来るんじゃないか」という提案というかお話もいただきました。

もう1点は、とても印象に残ったのが、小学校や中学校でどうしても本を薦めるときに「速くたくさん読むのがよいと思いませんか」という問いかけがありました。「やっぱり表彰だとかいう形で、たくさん読んだ子をどうしても表彰したり、そういうところを見ると速くたくさん読んだほうがいいのかなって子どもにも思わせてしまうのですが、単な

る字面を追う作業にならないで、読書の本当の喜び、想像力の働きですとか感情移入って
というようなことを味わえているかっていうことが大事じゃないでしょうか」というお話が
ありまして、なるほどなということ、この2点、特に思いました。

ほかにもすごくいいお話っていうか、自分の保護者としての立場としてもそうですし、
図書館をどういうふうに皆さんに利用していただくかっていうことに関してとても示唆
に富むお話でありました。

また、後半は、5～6人のグループになってのワークショップでしたが、その中でやは
り感じたのは、多くの司書さんが遠くから、遠くといっても駒ヶ根とか豊丘の方もいらし
たんですが、そういった方たちと交流するってことが本当に大切だなって。目の前の子ど
もに何を薦めるかっていうその交流も大事ですし、司書さん同士の交流、ブックリストを
共有したりだとか、ほかの人の読み聞かせを体験するとか知るっていうことも大切だな
ということを認識して帰ってまいりました。とてもいい時間を過ごさせていただきました。
これが1点目です。

2点目は、先ほど教育長からもご紹介がありました人形劇フェスタですが、8月7～10
日、私、初めて毎日人形劇を見てきまして、全部で6本、人形劇を小学校一年生の娘と見
てきました。シニアの方からプロの方、それから中学生、東中生のほうを見せてもらいま
したが、たくさん見ることでまた改めて人形劇のよさっていうか、このフェスタのよさを
感じさせてもらいました。

多様な演じ手が多様な物語を持ってきて、それをまたいろんな立場の方が、子どもがた
くさんいる会場もあれば大人が中心というわけでもないですが、大人もたくさんいる会場
もあったりして、フェスタっていうことの意味やよさがよく伝わったなというふうにと
くさん見ることでより一層感じました。

それから最後に、そのフェスタの間ではありますが、8月8日の第2回みらい創造科
研修会ということで、県の武田教育長さんがいらしてお話して下さったのがとても印象
深く、これまたあつという間の時間でしたが、学びが大きかったなという講演会でした。

特に私の中でなるほどなって、当たり前のことではあるんですが、「学びを変えるため
にとにかく変えるっていうことが必要だ」ということを強調されてたように思うんですが、
「その変えるっていうのはやることを増やすんじゃなくてやめることだ」と。やっぱり私
自身もそうですが、学校の中で何かをやめるっていうときに抵抗が、子どもも先生も保護
者も抵抗があったりクレームがあったりということは多分起きてくると。「そこを支える
のが教育委員会の役割です」ということをおっしゃっていたのがとても私の中では印象に

残りました。「学校は学ぶことの意味を学ぶところだよ」というのを原点に戻って考える必要があるんじゃないかということが印象に残りました。

以上です。すみません、長くなりましたが、3点です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

続いてご報告がありましたらお願いいたします。

はい、じゃあ麦島委員。

○教育委員（麦島真理子） 私の活動報告は1件です。林委員と重複するところもありますが、8月8日に第2回みらい創造研修会に参加し、武田育夫先生の講演をお聞きしました。

「不登校児の増加、通常学級が減っているのに特別支援学級が増えているという現状、教師という職業の魅力や教員を目指す子どもの減少など様々な問題に対し、変えることイコールやめること、雪だるま式に増える仕事も時代の変化に合わせてやめていかなければ、新しい挑戦はできない、2割の否定を気にしていたら新しい挑戦はできない」など、鋭いご指摘や語り口で非常に勉強になる楽しい研修会でした。

中でも印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、新たに始まるみらい創造科について、私自身、先生方とお話したり交流したりする中で、入り口で難しく考え、自らハードル上げているという印象を強く受けております。講演の中で、まさに武田先生がおっしゃられたように、新しい学びイコール苦行・大変なことと先生方自身が無意識に思い込み、また学ぶプロセスではなく、結果や他者からの評価を重視している不安傾向が強いのではないかと感じます。

その不安を解消するために次の3つのことを思いました。①「子どもたちが企画・準備・運営する子ども主体の活動は下伊那の先生たちの特技である。そして独立性と創造性の精神こそ信州教育の一大特色である」という強みを先生方が再認識することが大事だと思います。

②「実際から、実践からではないと事実は学べない」ということから、現場の先生たちはもっと自信を持っていただきたい、自信を持っていいというふうに思います。

③「楽しさを忘れず、地域の特色を生かしたリアルな生活と学びを結びつけ、生徒と教師がゼロからともに挑戦すること」という武田先生の考え方に共感し、私もその通りだと思いました。

2つ目は、「子どもが感じるいい先生というのは、いつも私たちを見ていてくれた先生」というお話にドキッとしました。これは先生方だけではなく、親や保護者も同様であります。忙しい、余裕がない中でも子どもの行動に目を配ること、見守ることや気持ちや声に

耳を傾けること、それがいかに子どもにとって嬉しかったことか、自分が大切にされていたとか愛されていたかと感じることが分かり、自分の子育てにも生かしていきたいと思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

重なるところはあって全然構いませんので、お感じになったことがあれば、ぜひ教えていただきたいと思います。

さらにいかがでしょうか。

北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） お願いします。

大きく3点になると思いますが、1点目は、8月4日の午後に現職の校長先生方と退職した校長との懇談会というのがありまして、今年は松尾小学校の地域交流室というものを新たに設置したという発表をお聞きしました。

従来だとイベントがあるときだけ、地域の方に来ていただいて手伝っていただくということだったのですが、松尾小の取組としては、日常的に地域の方に学校に入っていただいて、必要なところで支援をいただくという、そのために地域交流室という、地域の方がいつでも来て自由に入っていただける部屋をつくって、支援が必要な先生方は、そこに何月何日にこんなことをお願いしたいという張り紙でお知らせをしておく、その部屋に来ている地域の方が教室に行って必要な見守りをしてくれたり、行事のときに一緒に付き添ってくれたりというような動きが非常にスムーズにできるようになったということでした。

「従来だとその地域の方に来ていただくには、そのたびに地区の代表の方に連絡をして、募って来ていただくのに非常に手数がかかっていたところが、かなり自然な流れができるようになった」といった話が紹介されました。

そうではあるのですが、全てがうまくいっているということではなくて、「今後、より円滑に進めていくために、とにかく今できるところから無理なく進めていきたいという状況」というお話を聞きました。

感想の中に、「中学でもそういうことをやりたいが、結論から言うと難しい」というような話でその日は終わりました。

そのほか、グループワークで小中学校の校長先生方からお話をお聞きしたのですが、働き方改革の実際についてお聞きしていく中で、校長先生方が一様に3つほどのことを言っていて、一つは「保護者への対応について非常に苦慮をしていることがある」という話。

それから先生方の今の風潮として研修に行くことすら働き方改革の削減の対象として、出向かない風潮がだんだん出てきているということ。3つ目は、先生方同士の校内での関わり合いについて、「要するに勤務時間の中であるべく済ませて早く帰りましょうという話になっているから、勤務時間中はなるべく仕事を進めて片付けるということが先になってしまっているので、かつてのように時間を超越して先生方同士が子どものことや授業づくりのことも含め、リラックスした雰囲気ですれ違った情報交換をし、その中から次の活力を見出していくといったような時間が非常に減っている」という、そんな話を校長先生方から聞いて、ちょっと不安を感じた会議でした。

それに続けてですが、8月5日の午後、第45回の西尾外国語教育研究大会という、これも現職の先生方がやっている会です。自分が20代半ば頃から始まったこの研修会で、夏休みの貴重な学びの機会でした。年齢を超えて先輩の先生や講師として招いた大学の先生とがっぷりと組み合って、指定された物語とか作品を読み込んで、その作品研究をするという会なのです。自分や教育長もそうだったと思いますが、そうした会で先輩たちのレポートや発言から、どこに注目するとこの作品がより読み取れるか。そして、その読み取る過程で気づいたことを、授業で子どもたちにどんなふうに還元するかというようなことを具体的に学ばせてもらった会なのです。今年の参加者は31名ほどでした。私たちが経験したころの半数以下になってはいるのですが、それでも若い先生も何人かいて心強いなと思いました。

その会の中で、日常の授業の悩みについてのフリートークをする時間がグループワークでありました。その場面は全員が国語の先生方なので、私たちが教室訪問しているときに授業を見せてもらって気になっていることがいくつかあったので、そのことを質問としてみました。

一つは、さっきセンター所長のほうから全国学調の結果の発表があったのですが、そのこととすごく関わっているなと思って聞いていたのですが、最近見せていただく授業では、「プリントの空欄を埋めるような、特に中学校の国語の授業はすごく多くて気になるんだが」というふうに若い先生方に問いかけました。正直に申し上げると返ってきた答えに唾然としました。どう答えてくれたかという、「一斉テストの不公平感をなくすために教材のプリントを揃えているんだ」と。「要するに扱う教材を揃えていって、同じプリントを使って授業やっているんです」という答えでした。そこで、「一斉テストのための授業じゃなくて何のための授業か」というふうに思わず問い返したのですが、授業観とか教育観というのが根本的にずれてきている。公平というのと子どもたちが作品を主体的に読めるよう

な授業をするというのは違うのではないかと思いつつ、その場はひきさがりました。

それからもう一つ。中学の国語の授業で今、意味調べ、かつて皆さんも国語の辞書を一生懸命引いたと思いますが、辞書を引いている国語の授業は今ほとんどない。教室に行くときみんなGoogle検索等タブレットで意味調べをやっている。「それが苦になる」と申しあげたら、若い先生方が逆に啞然とされて「えっ」って、「今は生徒に国語の辞書すら斡旋しませんよ」というお答えでした。だから中学生たちは、大人用の国語の辞書すら持っていないということなのです。

ですから、「若い国語の先生方は、Google検索で意味調べをするのは当たり前」と、それ以外に調べる方法すらないという答えでした。意味を知るという目的には早く到達するが、目的によって使い分けることが必要ではないのか。要するに辞書を引いていく過程で目的の言葉ではないのだが、その前後の言葉を見ながら、ああ、こんな言葉もあるんだとか。これも調べようとしている言葉に近い言葉で、こんな言葉もあるんだとか、こんな言い回しもあるんだってことも見つけて、語彙が広がっていく学びの場面にもなる。「そもそも国語の授業は語彙を広げていくための授業じゃないの」というような話をしたのですが、効率が最優先されて、何のために学ぶかというところの吟味が足りない気がしました。

最後に、さらに話を聞いていて驚いたのは、支援学級がない学校に在籍する若い先生がクラス7人の国語を担当しているそうですが、作文の授業で作文が書けない子が2人いる。「その子の指導について悩んでいる」ということでした。周りで聞いていた若い先生方がいろいろ助言をするのですが、その助言している言葉に「本当は支援学級で見てもらえればいいのにね」という言葉があったのがすごく苦になりました。

飯田市は、県内でもトップクラスの支援学級の設置状況で、密度濃く丁寧な支援がされているのですが、本来はインクルーシブでみんな一緒にやっている場合もあるはずのところを、少しでも支援を手厚くということで特別支援学級がある。若い先生方の感覚の中では、特別支援に相当する子はそちらのクラスで学んで当たり前で、通常級でやっている、手立てができないような感覚を持ってしまっているのではないかと。

目の前のその子の現状をなんとかしよう、できる範囲のことでなんとかしよう、情熱だけではどうにもならないこともあります。でも、担任となった以上その子の力を少しでも高めるために工夫し、苦勞するところも教員の仕事の一つだと思うのですが。

ということで、どれも教育の根本の核になるところ。さっきほかの委員さんからも出てきましたが、子どもが育っていく過程を大事にするとか、それでもなんとか子どものために教材をやりくりして、その子が少しでも自らの力で動けるようにするとかということに、

本来の教育の醍醐味があると思うのですが、何か結果だけに目が向いていて、しかも効率がよく、その結果にいきつけるってところに目が向いてるのかなと思ってしまいます。研修を嫌う傾向があるという話とか、教師同士の関わりが少ないといった話とかと、根っこが繋がっているのではないかと思って、全ての先生がそうではないということを十分承知していますが、「働き方改革」という名の下に、武田県教育長は、「変えるべきものは変える」と言っていました、そのときに忘れてはいけない根本というものをきちんと見据えながら、やめるものはやめる、変えるものは変えるとしていかないと、一番大事なもので変わってしまうのではないかという危機感を持ちました。愚痴のようなことになって、年寄りの戯言だと思って聞いてもらえばいいのですが、考えさせられることでした。

あと、人形劇フェスタのことで、来飯された大学生たちのうれしい話があるのですが、長くなったので、以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

何か今のご報告をいただいたことについて、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

私自身も、今、職務代理の、若い先生の話聞いて非常にショックだなんて正直思います。私も古い人間なのかもしれないんですが、働き方改革が進むのは大事なことなんです、進むのは何のために進めてるのっていうと、子どもと向き合う時間を大事にするためとか、教員が本来やるべきことに集中するためってやっているはずなんです、それが今の話でいくと、プリントをうめる授業が多いっていうことについては職務代理とも違和感を感じていて話をしていたところです。不公平感、そんなに必要な授業をその場で受けてなければ不公平だとは思いますが、その場で受けていて、そういう基準でいくのかなって思うんですね。非常に驚きですね。

本当に効率、これ作文は書けない子が2人いてっていったら、昔っていうと大村はま先生っていう有名な40人近くを一人一人違う教材、その子に合った教材を用意して、一人一人個別最適な学びをやった方がいらっしゃいましたが、ちょっとその話とは真逆の状況で、これは憂うべき状況だなというふうに思います。

○教育長職務代理者（北澤正光） 今の報告のグループワークのところで、困っている若い先生への助言を飛ばしたのですが、助言の一つが「AIを使えばよい」と。「その子がどんなテーマで書きたいのかを聞いて、テーマをAIに言うと、AIのほうでそれらしい文をつってくれるから、その子にとっては一応自分で書いたという満足感が生まれるから、作文

が苦手な子にはそういうふうになればよい」という助言をしていたのです。

確かにこれからの時代はそれもありかもしれないが、本当にその子は自分で書いた、それが自分の言いたいことだという、書いた満足感が得られるかなと思いつつ、その場はお聞きしてきました。作文が出来上がることが目的ではなく、どうやったら自分の考えを少しでも文章化できるようにするかがカギなのではないか。AIはまた別の場面で活用することではないか。「育てる」ということの根本が少しずつずれてきているのかな。

北澤所長が説明して下さった結果と結びつけるつもりはないが、国語の全国学調の結果が小学校六年のときの結果からたった3年間で3.7点もマイナスになっているというその状況は、全く無関係とは言えないのではという思いもある。

リーディングスキルテストを全員が受けて分析していくのもいいが、その分析で、「出た結果を踏まえて指導に生かしましょう」と言っているだけでは補えない。もっと根本的な教員としての子どもと向き合う姿勢の何かが違うという思いをもちました。

きちんと時間をとって、「本当に子どもと向き合うってどういうこと」というような話し合いを本気でやってもらいたい。小手先ではこれは変わらないのではないかな。一部のことでと承知しながらも、ちょっと寂しい気がしました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

ちょっとこれは大きな課題としていきたいなというふうに思います。またこのことについても、どこかで話題にできるといいなということも思いますので。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） じゃあ、続いて「教育次長報告」は先ほど申しましたように、今日は欠席のために次へ移ります。

（3）教育政策課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （3）番、「教育政策課関係報告事項」。

○教育政策課長（上沼昭彦） 本日はございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(4) 学校教育課関係報告事項

- 教育長（熊谷邦千加） 続きまして（4）「学校教育課関係報告事項」。
- 学校教育課長（伊藤 寿） 本日はございません。
- 教育長（熊谷邦千加） はい。

(5) 教育センター関係報告事項

- 教育長（熊谷邦千加） （5）番、「教育センター関係報告事項」。

北澤教育センター所長。

- 教育センター所長（北澤孝郎） 1点、お願いいたします。

第2回学園長会議についてを書かせていただきました。6月に第1回小中一貫教育の推進委員会というのをさせていただきましたが、それらを受けまして、今度は学園長を中心とする今後どうしていくかという会議でございます。

毎年、教育長と北澤教育長職務代理者には出席いただいております。期日は9月3日水曜日午前に行く予定であります。

また、ご案内等は差し上げたいと思いますが、中身としましては、みらい創造科をどう実現していくかという、そのときにどんなふう環境を整えていくかということについて話し合いをしていきたいと思っております。

以上でございます。

- 教育長（熊谷邦千加） 今日そのことについて協議した場面があったんですが、どうやってそういうみらい創造科に関わることを話題にする時間を生み出すかっていうことで、今話題になった働き方改革に関わることなので、そこに踏み出すために何をまたやめるかみたいな話がここでは出てくるかなと思っておりますが、そのときに本質的に大事にしなきゃならないものと、そうでないものとをしっかりと見極めて、話し合っていくか学園長会議ができるといいなというふうに思っております。

続けて、後でご質問等をいただきたいと思いますと思っております。

(6) 生涯学習・スポーツ課関係報告事項

- 教育長（熊谷邦千加） 「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

- 生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それでは資料の3ページ目を御覧いただきたいと思います。

ます。

第 41 回信州飯田 60 歳以上ソフトボール大会でございます。今年度につきましては、9 月 13 日～14 日に市内 4 つのグラウンドで開催を予定しているところでございます。

昨年は、第 40 回の記念大会を開催させていただきましたが、今回は通常の大会を行う予定としております。

昨年度は、全国から 46 チームにご参加をいただきましたが、今年度は 45 チームということで、昨年度と大きく変わるのは伊那市からのチームが 1 チーム減ったということでございます。

このような形で進めさせていただきたいと思っておりますので、ご承知おきいただければと思います。

私からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（7）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（7）番、「文化財保護活用課関係報告事項」。

○文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（8）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （8）「公民館関係報告事項」。

小林公民館副館長。

○市公民館副館長（小林和弘） すみません、資料の 4 ページ・5 ページになります。

今年度の飯田市民大学講座のご案内になります。第 49 回ということで市民大学講座、地域に縁のある先人の方、当地域の暮らしや文化・芸能、そういった部門をテーマとして取り上げまして、今年度で第 49 回目を迎えます。

資料によりますとおり、今年も 5 講座を予定させていただきました。来年度は第 50 回を迎えるということもありまして 11 月 22 日には「せっかく交流会」こういった部分を設けながら、また次年度へ向けて交流含め、進めてまいる予定でおりますので、資料のほうを御覧いただければと思います。よろしく願いいたします。

以上となります。

○教育長（熊谷邦千加） はい、瀧本館長も講師になっていきますね。

(9) 文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして「文化会館関係報告事項」。

福澤文化会館館長補佐。

○文化会館館長補佐（福澤信幸） 2点お願いいたします。資料の6ページ・7ページになります。

6ページですが、人形劇定期公演ですが、9月14日人形劇場で開催されます。

続いて7ページでございますが、「川本喜八郎生誕100年特別展」としまして、9月13日から始まりますのでぜひ御覧いただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(10) 図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（10）番、「図書館関係報告事項」。

○副参事兼中央図書館長（瀧本明子） 本日はございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(11) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （11）番「美術博物館関係報告事項」。

榎村美術博物館副館長。

○美術博物館副館長（榎村洋介） 美術博物館からは2点お願いいたします。

まず、9月の「びはくにゅーす」でございます。ピックアップしてお話させていただきます。プラネタリウムですが、9月から新しく番組が一つ加わります。3回目の投影「ムーンベース～月面基地のミライ～+星空解説」でございますが、これは月開発に関わる番組となっております。

それからその下、「春草ウィーク」でございます。今年は9月17日から9月23日の間、展示観覧を無料ということでご案内させていただきます。その間にプラネタリウムの解説付きの特別投影を開催いたしますのでご来場いただければというふうに思います。

それから裏側ですが、講座がいくつかございます。遠山郷に関する展覧会をスタートさせますので、自然講座、それから特別展に関わる講座も開催しますので、ご承知おきいただければと思います。

それで次に、特別展「山とともに生きるー遠山郷のあゆみとくらしー」の案内チラシを配布させていただきました。こちらは9月13日から11月9日までの会期です。

遠山郷は、山林がたくさんある地域ですが、山とともに暮らしてきた地域でございますので、その古代から中世、そして現代まで、今の遠山郷が抱えている問題までを含めて、遠山郷に焦点をあてて山との暮らしを見ていこうとする展覧会でございます。

また、いくつかの講演会とともに映像の上映会を予定しております。昔「遠くへ行きたい」という番組が読売テレビでつくられましたが、伊丹十三さんが関わっていらっしゃいまして、飯田に関係の深いテレビマンユニオンが制作したものでございますが、この上映会を行います。ご覧いただければと思います。

以上であります。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(12) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（12）番「歴史研究所関係報告事項」。

牧内歴史研究所副所長。

○歴史研究所副所長（牧内 功） それでは12ページ「歴研ニュース」137号を御覧ください。

表紙につきましては、9月6日・7日の第22回飯田市地域史研究集会につきましては、先月の定例会で説明をさせていただきましたので省略させていただきます。

開いた2ページのほうですが、資料紹介になります。現在、昨年夏から続いております、米価の高騰で「令和の米騒動」と言われておりますが、飯田市でも1897年に9月1日から4日にかけて「黒田騒動」と言われます2,000人もの人が精米所や本町にあった米の業者の家を壊して警察署を襲撃したという、そういう大きな騒動がございまして、今回その黒田騒動の様子を伝える数少ない資料であります、書簡、いわゆる手紙について紹介しております。

3ページ上段ですが、リレーエッセイになりますが、民俗学者の折口信夫を介しまして、阿南町新野の神社と東京青山の神宮外苑のつながりについて書いてあります。

下段は、10月4日に満州移民の連続講座、3回目最終回の開催について記載してございます。

最終4ページですが、建築史ゼミの活動報告と定例研究会の開催、あと歴研ゼミの8月・9月の開催日程についてそれぞれ記載しております。時間があるときにまたお目通しいただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） 今、説明をたくさん各課・館・所からお話をいただきましたが、報告につきまして何かご質問やご意見がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

報告事項のみならず全体を通して何かご発言しそこなったとか、聞き損なったということがございましたらお出しただければと思います。いかがでしょうか。

野澤教育委員。

○教育委員（野澤稔弘） 私自身も純粋に夏休みをしていたので、特にこれという報告はありませんが、今日お話を伺って思ったのは、20年ぐらい前にかじった心理学で交流分析というものです。心に形はないのですが、人の心を捉えてコミュニケーションを円滑にする心理学です。今日お話を伺っているとそのことをすごく思い出しました。

人の心が見えるわけではないですが、親、大人、それから子どもという3つの心に分け、さらに親に関しては父親の心と母親の心というふうに心を捉え、厳格な父の心、明治・大正ぐらいの厳格なお父さん像の父親の心、それから保護的な子どもを守るといような立場の母親像、それから沈着冷静な大人の心、最後にわがままで無邪気な子どもの心。人間は、このような四つの心が様々な大きさと、それぞれの人に存在しているとして、それを捉えて日々のコミュニケーションを円滑にしようとするものです。

厳格な部分、正邪の判断とか公序良俗、そういったものの判断基準は、厳しい父親から受け継がれていくと、厳格な父親の心が育っていく傾向が強いということになります。

今日センター長のお話にあったところでは、今では厳格な父親が少なくなっているため、不登校の問題に限らず、本当にできないことと、できるんだけどやらないという子どもの区別ができなくなっているという気がしています。なんとなく今はみんなよしよしという感じになってしまうので、ちょっと社会の厳しさみたいなものが子どもに対してもなくなっているのかというイメージがあります。そのような社会の一面が、人口が減っているのに不登校が増えてきている要因のひとつなのかなと感じました。

また、先ほど職務代理さんのお話があった、作文をAIで作るなんて「えっ」と驚きます。教育は子どもたちの心をつくっていくようなことかと思うときがあります。交流分析で言えば、父親の心が大きい子どもがいたり、母親の心が大きい子どもがいたり、アダルトな沈着冷静な子どもがいたり、子どもらしい人懐っこくわがままで無邪気な子どもも

いたり、子どもでもそれぞれいろんな心の形を持っているはずですが。しかしその子そのものの持っている心の形を無視して、規格化してやりやいいのよってというのはいかにも大量生産・大量消費で生まれた僕たちの世代の詰め込み教育と全く同じことを今もやってるのと思ってちょっとドキッとしました。

それでいいと思ってしまうのなら怖いなと感じました。いろんな個性豊かにしようと言いながら、一人一人を大事にしていこうって言いながら、やっていることは全く真逆のことをやっているとすれば、これは本当に取り残されているのは子どもたちであって、何かそこに手を打っていかないとちょっと大きな問題になってくるのかなと、お話を伺って感じました。

何か見るべきところが全く違っていると感じました。そこは先生として恥ずかしくないように、基礎的なところは持ってなきゃいけないのかなと感じた次第です。

私は社長業を辞めましたが、社長をやるときには、何十人もいる従業員一人一人どんな性格でどんなことが得意でっていうのを全部見ていかないと会社なんてまともらないですね。何かそれを画一的にやれば、社員がついてこなくなってしまうことを経験した上で、子どもたちをそういうふうに見ていかないといけないと、今日皆さんのお話を伺っていて改めて思った次第です。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。大事なお話をいただきました。

ありがとうございます。

北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） 何か変な種を蒔いちゃったかな。憂えるような雰囲気にしてしまっって申し訳ないなと思っています。

昨日、教育長と一緒に参加した県教育委員会との懇談会のところで、教員の働き方改革を進めていく上で、塩尻市が県の指定を受けて一歩先に進めているということで、その事例発表がありました。先生方が負担を感じていることがいくつかある中の1つに、テストづくり、中学校の場合、一斉テストづくりも結構負担を感じているものの一つだから、市内共通でテストをつくる取組のような発表もあった。時間がなかったから質問はしなかったのですが。

確かにそれで効率化は図れるのかもしれない。確かに学校ごとでテスト問題をつくることは、結構時間がかかることで大変であることは分かる。それは分かるが、そうするとさっき若い国語の先生が答えていたのと同じことが舞台裏では起こるのかな。要するに同じ

教材使って同じようなところをやっておかなければならないから、それぞれの学級の子どもたちの興味関心を土台とした授業は行いにくい。限られた時間の中でテスト範囲が終わっていないと対応できないからみたいなことになって。子どもが真ん中に考えられているとは言えない状況がうまれてくるのではないか。

部分だけを見れば効率化だが、何のために効率化するのか。本当は子どもと向き合う時間をつくるために効率化していくはずなのに、大人の都合の効率化であって、教科を通して子どもと向き合っているのか自分の中ではすごく疑問です。

先生方が「負担だ」と言っているその負担の中身、でも、それは学校教育の本来業務である場合もある。その本来業務を負担と言ってしまうと、学校って何の仕事をする場所ですかと保護者や地域の皆さんから言われかねない状況が起こるのではないかと危惧しています。今の野澤委員さんの話もそうですが、そういう状況も一部にあるということ意識していないといけないなと思っています。

○教育長（熊谷邦千加）　　ということをまた踏まえながら、学校訪問等でも実際を見ながら、また助言なりアドバイスなり提言なりしていけるといいなということを思います。

さらにございますか。

麦島委員。

○教育委員（麦島真理子）　　ちょうどまさに学力テストの対象となった小六と中三の子どもが今いますので、小学校から中学校にかけての4年間で、勉強の好き嫌いとか、授業内容の分かりやすさがどう変わっていくかなどのお話をちょっと聞いてみたいなと思いました。

○教育長（熊谷邦千加）　　ぜひまた教えてください。

やっぱり子どものことを子どもに聞くことってすごい大事だなって。もちろんトンチンカンな答えを言う場合も子どもたちのことですので、勘違いしてあるでしょうが、子どもたちはどう感じていっていかってというのは実は意外と真理をついている可能性もあつたりしますので、ぜひまた教えていただければなと思います。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加）　　今日は最後にとっても大事な話題が報告事項でございましたが、また課題としても意識もしていかなきゃいけないというふうに思いました。ありがとうございました。

(13) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加）　じゃあ、今後の日程につきまして、事務局の説明をお願いいたします。
北澤五月総務係長。

○教育政策課総務係長（北澤五月）　それでは定例会会議事項の資料の3ページ・4ページを御覧ください。(13) 今後の日程であります。

来週25日は、飯伊市町村教育委員会連絡協議会が、27日には新任教育委員研修会が記載のとおり行われます。括弧で記載をしております委員さん方にご出席いただきますので、よろしくお願ひします。

それから9月3日から16日の間で小中学校の校長先生の面談を設定しております。また9月8日は第3回校長会が、10月8日は第3回教頭会が、それぞれ予定されております。教育長と教育長職務代理者にご参加いただきますのでお願ひいたします。

来月9月の定例会は、9月12日金曜日に市役所A301・302で予定をしておりますのでよろしくお願ひいたします。

また、10月3日から11月14日の間の9日間で、各小中学校の学校訪問を予定しております。詳細予定は、机に置きました別紙のとおりですが、後程申し上げますとおり11月上旬の日程が非常にたて込んでまいりますので、ご承知おきいただければと思います。

資料に記載がなく恐縮ですが、協議事項でお話のありましたとおり、9月26日から10月12日までの間に運動会・文化祭がございますのでまたご予約をお願いいたします。

10月定例会は、クに記載のとおりございます。

11月ですが、11月7日金曜日、飯伊市町村連絡協議会秋季研修会が行われます。こちらですが、会場が鼎公民館から上郷公民館へ変更となりましたので、また次回きちんとご説明させていただきますし、詳細は現在詰めておりますので、また確定をしましたらお知らせいたします。

11月10日の月曜日は、総合教育会議の開催予定である旨を、市長部局のほうからいただきました。テーマ等につきましては、次回にお知らせできると考えておりますのでよろしくお願ひします。

11月11日の火曜日には11月定例会が、11月12日の水曜日と14日の金曜日には先ほどお話ししましたが学校訪問がございます。予定がたて込んでおり恐縮ですが、ご予約いただければ幸いです。

今後の日程は以上になります。

○教育長（熊谷邦千加）　はい。

日程につきまして、何かご質問等がありましたらお願ひいたします。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） はい。

それではいろいろこれからもお世話になりますが、よろしく願いいたします。

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） 日程第10。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

8月の教育委員会定例会を閉会といたします。

お疲れ様でした。

閉会 午後4時00分